

## 初めの一步

細田厚司

数理物質科学等支援室室長補佐

(ほそだ あつし)

「つかのまの つくばの歩み また楽し」

いつの間に年月を重ね、振り向くことのなかった日々を、ちょっと辿ってみた。

### 共同生活

1973年に東京教育大学に採用され、翌年兄が運転する軽トラに、友人から貰った中古の50ccバイクと布団等を積んで埼玉の地から赴任となった。その頃は、公務員宿舎は世帯用宿舎が建設されていただけで、独身者は、この世帯用宿舎に順次3人一組で割り当てられるという共同生活が始まった。夕方、仕事が終わって宿舎に帰ると、同僚が料理した野菜炒めや合宿所の食堂で調達した唐揚げ等で懇談、各地から集った有志と夜の更けるのも忘れ話に花が咲いた。この時、山登りや溪流釣り及び山野草のことも等々、達人が教示してくれた。また、吾妻の宿舎から筑波山頂までをこの仲間と初めて徒歩で完歩した。それぞれ転勤等したが、今も変わりなく交流している。

### 鍛えか…

何かで読んだが、戦時中、敵兵を捕虜にすると土下座をさせて殴りつける。人は自尊心をなくし反抗しなくなる。とのこと。

それは日常の仕事場に突然現れた。「馬鹿野郎！こんなのを回すな！」言うなり、書類が空を舞った。この日から、しばらく仕事に行くのが嫌になった。今でこそ、ハラメントの定義があるが、その上司は当時、「筑波の名物男」の一人とささやかれていた。引き継ぎ等で数日経っても席に来ないため、急ぎの書類を持って行くと、回しておくように言われ、気軽に後伺い。是がまずかったのと、お前の元上司から、よろしく頼まれたので鍛えてやる。とのこと。「字が汚い！（当時は手書きが普通）件名が違う！」と罵声。なじられ、長い間立たされ！そして定規を振り回し、頭をかすめる！」これまでの事務室の雰囲気が一変した。トレードした個室の長も普段開けているドアをボタンと閉めてしまう有様。見かねた近くの職員が進言するが、無駄であった（紙面

の都合で結末は省略)。こんな事があって自尊心を傷つけられ癒えるまで時を要したが、このことが一つの因となったのか、以前より人を尊重し、大切にする自分になれたと思っ

ている。今では、この出会いも偶然ではない気がしている。

## つくば路を歩く

「車降り歩けば見える四季のキャンパス」  
「歩こうよ青葉若葉のつくば路を」：山川厚作  
ひよんなことから、職員同好会「歩こう会」の世話人をしている。1987年設立で、今年20周年となった。「健康のため歩いてみませんか」は発足当時から今も受け継がれ、当時を知るOBや他機関へ転任され、今も現役で活躍中の先輩も時々参加し、また、月々の定例会には常時十数人が集い、主につくば市周辺を歩いている。

特筆すれば、数年前からクリーンウォークや防犯パトロールを兼ねた歩こう会も行っている。話がそれるが、ある部局の会議でクリーンデーの議題の際、議長が協力を促すと、一人の教員から、「学生が捨てたゴミや空き缶を何で拾わなければならないのか」との発言があり、あぜんとしたことがあった。また、3年程前に大学で行ったセーフティプロジェクト：防犯パトロールに歩こう会の数人と参加、パトロールの後、

アンケート調査があったので、実際に歩いて暗く危険と思った所に街灯の増設を要望、そのこともあってか、学内は要望した箇所等に街灯が順次増設されたが、学外の大学植物見本園付近の暗い県道は保留となった。少し過ぎてから、私の住む班でたまたま話す機会があり、それではと地域から県等へ要望をしてくれた。

さて、歩こう会の設立時の文面に「人間にとって健康は宝、歩くことはその基本である。四季折々の風情を満喫できる学園都市を規制もなく、誰とでも、ひと汗流すくらい歩いて、車社会で奪われた足を取り戻す」とあった。私が、歩こう会に参加するのも「健康のためと自然に親しみ季節を肌で感じ、リフレッシュができ、時には詩もできる」ことで共通している。

最後に今まで沢山のひととの出会いや別れがあったが、その時々関わった一人ひとりが、私を成長させ、前向きな自分に育ててくれた大切な方々である。

「心こそ大切なれ」とは先達の言葉である。今日からさらに、心を豊かにし、触発してくれるひととの出会いを期待しつつ…。